
人間はクズ いや、俺は人間のクズ。

lx氷龍xl

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人間はクズ いや、俺は人間のクズ。

【Nコード】

N2301Y

【作者名】

1 x 氷龍 x 1

【あらすじ】

俺です。

イケメンです。

地味面です。

帰宅部です。

高校生です。

文句ある？

俺は、高校生。（前書き）

高校生の俺が、イケメンだけど性格地味面な俺が、恋してはりました。

でも人間は嫌いじゃ、でも、好きな人くらいおるんじゃ／／／

俺は、高校生。

俺は、高校生。

嘘だと思つか？本当だ。

そこ疑ってくるのか貴様、これだから人間は…。
おっと済まない。

俺は、高校生。

帰宅部オールスターズの一員だ。

俺が幼稚園児の頃に立てた将来の夢。

「仮面ライダー」

馬鹿か。アホか俺は。

2次元と3次元ごっちゃにしてんじゃねえよっていう。
んで、今更だが自己紹介。

中村 浩太と申します、はい。

え、読めないの？ 本気で言ってるの？

笑えるわぁー なかむら こうた って言います。 クスッ

まあ、今となっちゃ将来の夢なんて、ちっけなもんだよ

俺はこのまま、普通に卒業して、普通に大学入って、普通に就職して、普通に稼いで、普通に結婚して、普通な生活を暮らしていきたい。

学校では割と静かな方。

まあ、べつにそこまで人に好かれてるわけでもなく嫌われてるわけでも無い。

でも、残念なことに俺は人が嫌いだ。

みんな、高いとこ行ったことあるか？

うんちやらタワーとか、ゴニョゴニョツリーとか。

そっから見ても、蟻がうようよしてんぞ、蟻が。その蟻が人間。そしてその人間に一人に俺がいる。

とても悲しく思えてくるぜ

みんな、グラセフとかやる？（著作権的關係で若干変えています）俺さ、最初にも言ったけど、帰宅部オールスターズの一員なんだ。オールスターズの中でもナンバーワンを争うゲーマーなんだ。グラセフで何回人を殺したと思っております？

「たく、人間って脆いな。うん。」

こんな僕にも、好きな人がいます。いや人間は嫌いだよ？

でもさ、カワイイ人は別だよノノ性格地味です。

まあ、帰宅部オールスターズとか言われちゃってますからね。でも、意外とイケ様って言われるんです。

もったいないって言われます。はい。

なんで、若干髪とか気にしてます、ワックスバリバリです。

あとけっこう見た目はモテる要素たっぷり詰めてます。

でも、地味なんです。

で、ここまでしゃべってきて、なにが言いたかったかというと、

「内面地味ちゃんのイケ様が狙う！ アイツの彼氏は俺だけだ！」
っていうね。

でもね、俺ね、女子との関わり方と変わらんのよ。

帰宅部オールスターズに聞いても、

「とりあえず触っちゃえよ　ぐへへへへ」

「ただただ見つめるんだ。相手の目を…じつと…そして…逃げろ」
俺が駆けつけるから呼んでくれよ」

パツと見変態内面変態しかいねえからこんな感じの答えしか帰ってきやしねえ。

そんな俺がアイツのハートをキャッチして、無事結婚♪てきなね。そんなHappy Endで終わればいいなと思いつける。

さてと、登校しますか。もうソロ8時15分。
うん、やばい。」

俺は、高校生。（後書き）

ぜひとも感想評価お願いします。

おうし座1位の俺だぜ（前書き）

高校生の俺が、イケメンだけど性格地味面な俺が、恋してはりました。

でも人間は嫌いじゃ、でも、好きな人くらいおるんじゃ／＼／

おうし座1位の俺だぜ

キンコーンカーンコーン

チャイムが鳴った。

俺は今、下駄箱にいる。

「おい！中村！もうチャイムなってるぞ！」

先生だ。このセリフ、ほとんど毎朝聞く台詞だ。

「あ、はい、すみません。」

ガラガラッ

「おはようございます、中村君。2分遅れてますよ？」
担任にも言われる、同じ事を何度も言われると腹立つ。

「あ、はい、すみません。」

先生の長い連絡事項を聞き終え、授業が始まる。

「ああーい、席つけえー」

先生の華麗な登場だ。

コレは現国の先生、かなりダルそうな先生なんだ。

授業中いつも俺はあることをしている。

それは

『やまもと山本 はるな春菜の観察日記』

ああ、山本春菜ってのは前話した俺の好きな人。

カワイイんだぞ、みんな見たら一目惚れしちゃうぞ。

まあ、観察日記書いてる俺だが、

はたから見ると俗に言う「変態」ってやつだろうな。

まあ、そう思われてもしょうがないだろ、と思ってる。

人の目ばかり気にしてたら生きていけねえからな！（ー、
4

）キリッ

「うああーい、授業終わりー、お疲れさん」

アアー、授業疲れるわ。

それよりなにより、春菜ちゃんは俺のことどう思ってるのかな？

こういうのって気になるよね、わかるかな、恋してる人々よ。

なんかさ、こう、いいタイミングでさ、春菜ちゃんの友達が

「ねえねえ、浩太のことどう思う？」

とか聞かないかな？

あり得ないか、うん。

「春菜ー！！」

「んー？あーちゃんどうしたの？」

あーちゃんつつーのは、春菜ちゃんの親友の

たかはし あさひ
高橋 旭日だ。

「ねえねえ、浩太くんのことどう思う？」

キタ （。°。）（。°。）（。°。）（。°。）（。°。）

）（。°。）（。°。）（。°。）（。°。）！！！！

なにこの展開？！ さすがおとし座1位なだけアルぜ！！

「浩太くん？」

「そうそう！！ハルはどう思ってたのかな？って！」
「うーんとねえ、あたしは…」

来い！来い！

良いコメント来い！

「かつこいいと思う！」

うぎゃあー！

え？！え？！ マジかあ！！

「でもね、ジンミツ」

ですよねえー

帰宅部オールスターズですもんー

「アレで、性格優しかったら絶対もてると思う！」

性格か！よっしゃ！

イメチェンしようかな！

「性格良かったらハルは好きになる？」

「うーん、候補にはなる可能性もくはない！」

イメチェン確定

「そつかあ！ごめんね！イキナリ変なこと聞いて！」
「いやいや、いいんだよ！（笑）」

うわ、笑顔超可愛いし（＊／／／／／／／／／／＊）
惚れてまうやるオー！

いや、惚れてますけど。

キンコーンカーンコーン

放課後です。

1日って早いものですね。

もう春菜ちゃんとお別れですか、早い。

「ハル！一緒に帰るオ！」

「あーちゃん、ごめん！あたしきょう部活あるんだ…！」

あ、そうか、春菜ちゃん
は部活やってるんだ。

バスケット部だったけか、一度でいいから見てみたいなあ

「そっかあー、じゃあ、仕方ないか!!」

「うん、ごめんねえ！」

「いいよ！いいよ！うち違う人と帰るから！」

「うん、本当ごめん！」

さてと、俺も帰ろうかな。

一人でのたのたと帰るのがいつもの帰り道。

「浩太くん！一緒に帰ろ……！」

え？ ええええええええええ！？

旭日が一緒に帰ろうだとおー？

「え？あ、うん、いいよ」
「やったあ」

え、なにこの展開？！
女子と二人で帰るなんて初めてだ！

「うち、浩太ちゃんと話すの初めてかも！」
「お、おお、そうだな」
「なんか、照れるねえーっ！」

うお、何だこいつ…
け、結構力ワイイじゃねえか…！！

「家どの辺なのー？」
「あの、セブンの裏あたり」
「へえー！結構近いんだね！」
「そ、そうだったんだ」

やべえ、何だろうこの気持ち
なんか、変な感じする。

「あーちゃん！！」
「あ、ゆうちゃん！」

うつわ、気まず！
え、なに、友達？
まじかよ、くっそ恥ずいじゃねえかよ！

「お？お、お、お？ いい彼氏つれてんねえ、あーちゃん！（笑）」

「や、やめてよぉー／＼／」

か、彼氏…！！

「彼氏なんでしょー？（笑）」

「ちつ、違うよ！ただの友達だよ！」

友達…。

俺、友達いたんだ…。

旭日、俺のこと友達だと思ってくれてたんだ…！

「ねえねえ！イケメン君！どうなの？あーちゃんの事好きなの？（笑）」

「やつ、ゆうちゃん！！やめてよ！」

え？俺？

「い、いや、俺は別に…」

「ほ、ほらね！だから言ったでしょ！」

「なあってっんだ！つまらないなあ（笑）あ、ウチ家ここだから！」

「じゃあーねー！」

やつといなくなった。

何か、もう、怖かったw

「ご、ごめんね浩太くん！」

「ああ、気にすんな」

「ありがとう♪優しいねッ！！」

優しい…！！？

俺って、優しいのか？！

もしかしてコレは、来たんじゃね？！

「浩太くんってさ、いつもなにやってるの？」

「いや、特にこれといったことは…」

嘘つけ！

ゲームしかやってねえだろ！

モンハンばっかだろ！

「そうなんだ！じゃあさ、きょうこれから空いてる？」

「きよ、きょう？え、えっとー、う、うん。空いてるよ」

テンパリ過ぎ！

俺テンパリ過ぎ！

ってか、きょうウカムの最速タイムだすんじゃねえのかよ！

「やったあ　じゃあ、一緒に出かけよ！きょう、暇なんだア！」

「そ、そうなんだ、俺でいいならね。」

「全然いいよ！むしろ浩太くんがいい！！」

俺がいいだと…！

嬉しいぞw

「じゃあ、きょう帰ったら4時にセブンに集合ね！」

「わかった」

「じゃ、ウチこつちだから！」

「おう、じゃ」

「ばいばーい」

ふう

落ち着いたぜ。

きょう俺は初めて女子と二人で帰った拳句二人で遊ぶだとか？
おうし座1位の力ハンパねえ！

よっしゃ！

俺が持つてる中で一番おしゃれな服来ていこつと！

うし、準備完了！

行くか！

おうし座1位の俺だぜ(後書き)

感想、評価お願いします。

シャッター音は、人をも傷つける。

俺は待ち合わせ場所に向かった。

「浩太クーン！」

「あ、どうも」

「って、え?! ちょ…何そのカッコ!」

俺の中では一番のおしゃれだった。

なんか、すげえシヨック。

「でも、浩太くんはそういうのが似合ってるのかもね! (笑)」

なんだそれ、褒めてんのか、バカにしてんのか
どっちにせよ、変なことには変わらないだろう。

「ようし! じゃあ、行こっか!」

「…おう」

二人は歩き始めた。

特にこれといった場所はなかったため、うろちよろしてるだけだった。

俺は、結構面倒くさくなっていた。

と、そこで…

「ねえねえ、あれ知ってるー?」

旭日が何やら洒落たボックスを指さしていた。

「全く知らん」

「あれね、プリクラっていうんだよ!」

プリクラか…、なんか聞いたことあるなあ。

「ここで問題です!」

「え?」

「プリクラとは、なんの略でしょうか!」

知らん!全然知らん!

プリクラだろ?

プリプリクラシック?

プリンくらいの大きさ?

全然分からん!

「あの、そういうの全く分かんないんだけど…」

「あ、ごめんごめん(笑)正解は、プリントクラブだよ!」

「へえ!」

知った所でどうしようもない知識ゲットだぜ!

「んでさ、あれ、行かない?」

「え、まあ、いいけど、あれって何すんの?」

「写真撮るの!」

「ふ、二人で…?」

「そうだよ」

お、おお、まじか。

まあ、初ってことで、撮ってみてもいいかな

「へえー、そうなんだー」

「いい？」

「うん」

「じゃあ、行こう」

中に入るとそこはなんか変な感じがするボックスだった。

後ろには緑のシートがありこんな背景で写真取るのかと思いますます変な感じに

『お金を入れてね！』

え?!カネカカルノ?!

「今回は私がお金払ってあげる！」

「有り難き幸せ」

良かったぜ、こんな所で無駄金使ってる場合じゃないんだ!

旭日は、一人でキャツキャツキャツしてる。

「ねえ、浩太くんとりよー?ホラホラ、携帯いじってないで!」

「ん、ああ、悪い。」

携帯でツイッターしてたんだ

『プリントクラブなう』

「はい、チーズ」

パシャあああああああ!!!

「ウオッ...!」

「どうしたの?」

「いや何でもない。」

音デケエ！

不意打ちだったぜ！！ww

「ここのプリクラシャッター音が異常だからね」

なぜ他を選ばないのだ、小娘よ。

「もう一個撮ろ！」

「はい、チーズ」

パッシャああああああああああ！！！！

うるっせえよ！！

耳破裂するわ！

「よし、完成 あとはでこるだけ」

デコってる間、暇な私です。

Twitter「シャッター音は、凶器だった」

「できたよー！！」

「おう、さんきゅ」

デコるセンスがめちゃくちやすごかった。
帰ったらPSPにでもはろうかな。

それにしても、この辺は人が多い！
気持ち悪い！

最近是人馴れしてきたけど、でもやっぱり嫌いww
知ってる人とかなら結構行けるようになったぜ!!

俺はその後もさんざん旭日のショッピングに連れ回された。

「今日はありがとね!付き合ってくれて!」

「うん」

「じゃあ、今日はこの辺で!」

「ノシ」

家に着き、まずはPC起動。

それと同時に進行でPSP起動。

早速モンハンを!!

「あ、そういえば」

きょう撮ったプリクラを見た。

「PSPに貼ろ」

PSPの裏面に貼った、意外といい。

自然と笑顔があふれた。

「よし!ウカムいこう!」

最善の装備で俺はウカムの狩りに向かった。

こんな時間を過ごしながら、現在時刻は、午前4時。

「ハンゲも飽きてきたなあ。そろそろ寝るか」

俺は平均睡眠時間2〜3時間と少なめ。
授業は寝ずに受けている。

もう、睡眠しない生活にも慣れている。

常にゲームやってる俺は目が悪い。

そんなもんでしよう。

「うし、寝よう。」

こうして、浩太の長い長い1日は幕を閉じた。

シャッター音は、人をも傷つける。(後書き)

感想評価お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2301y/>

人間はクズ いや、俺は人間のクズ。

2011年11月18日08時12分発行